

(薬 局)

自分自身の成長に役立ったという回答が多く、次いで、実務実習で役立ったという回答であった。日常業務に役立ったという意見もかなりあった。

具体的には、グループの中には色々立場の違う方もいて、考え方に違いがありことを発見できた、「社会における薬剤師の役割」について薬学生と店舗スタッフを交えSGDを行った、コミュニケーション力がついたなどがあげられた。

【選択形式の設問】

②-2 スモールグループディスカッション (SGD) について：活用した業務・活動

《まとめ》

SGDを「活用した」となると、上記よりも数字は下がるが、それでも2/3程度の参加者が、実務実習に活用しており、1/3程度の参加者が業務に活用したと答えている。

【記述形式の設問】

[28] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習として、院内研修などでもSGDの機会が増えており薬学生にもテーマを与えて実施している、調剤薬局・大学での悩みなどがわかったので実習生に注意しやすくなったなどがあげられ、研修会などとして、様々な研修、薬剤管理指導、がん化学療法・緩和ケア委員会の運営と委員会目標の立案についての検討会、大学の授業、保護者会などがあげられた。また、自己研鑽として、薬局会などの会議進行、チューターの難しさに気づき改善策を考えるきっかけになったことがあげられた。

(薬 局)

実際に活用した業務となると、活用というほどではないという回答になってしまう傾向にあり、特になし、あるいは、活用していないという意見が多かった。次いで、種々の研修で活用したという意見があった。

具体的には、実務実習にかかわる業務として、実務実習集合研修、指導薬剤師の集合研修など、研修会などとして、新入社員研修、社内勉強会、地域でのミーティングなど、日常業務として、業務効率化のためのお互いの意見交換があげられた。

【記述形式の設問】

[29] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習でSGDを行うことで、良い結果が得られている事例や、日常業務の改善に

役立ったという例が多く、自己研鑽の例が3番目にあがっている。

具体的には、医療安全のことを学生にSGDさせることで、様々な考え方があることを体験してもらえた、医療安全についてSGDをした後に講義を行った結果、より理解を深めたように思われた、薬局内カンファレンスを行う様になったなどがあげられた。

(薬 局)

実務実習でSGDを行うことで、良い結果が得られている事例として、「災害時における薬剤師の役割」、「OTCの選択」、「調剤過誤事例」、「在宅医療」などをテーマがあげられていた。日常業務の改善や種々の研修に役立ったという例が多く、やはり自己研鑽の例が3番目にあがっている。

具体的には、実習生にそれぞれの役割を分担させてディスカッションが実施できた、社内の調剤過誤防止研修をSGDで行った、どのような意見も否定しない方法がコミュニケーション向上に役立ったなどがあげられた。

【選択形式の設問】

③-1 スモールグループディスカッション (SGD) について：役立った業務・活動

《まとめ》

コンセンサスゲームは、ワークショップでは必要・重要なものであるが、実務実習では、長期にわたり、同じ学生を指導するようになることもあり、学生の緊張を解くために、ゲームをする必要はないので、その重要性は下がると推定される。回答結果も、およそ1/2の参加者が役立ったと答えていた。他の業務にも役立ったという回答がおおよそ25%あり、研修や会合などで利用されたことがわかる。

【記述形式の設問】

[30] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

研修で役立ったという回答が多く、その場合、アイスブレイキングというよりも、SGDの考え方が役立ったという記述が散見された。また、この設問では、ゲームそのものは、役に立ったことはない、という記述が最も多かった。(ここでは、役立ったというもののみ記載)

具体的には、研修などとして、ワークショップを行う上で必要なグループ員相互のコミュニケーションを円滑に行うことができるようになった、NASAにおける飛行機事故後の遭難での集団としての対策計画、各種研修会など、個人的な知識として、考え方などがあげられた。

(薬 局)

利用、活用できないという意見が多く、ワークショップ当日に役立ったと答えた人

が多かった。他には、研修で役立ったという回答が多い。SGD という方法が自分にとって役立ったという意見もあった。

具体的には、ワークショップに参加したときとして、参加者融和・交流ができた、チームへの参加が自然にできた、ワークショップ中の親近感が増した、緊張を解くために有効などがあげられた。また実務実習として、事前学習、学生イベント、対人交流、実習生との接し方・関わり方などがあげられ、薬局内・地域での研修として、社内研修、新入社員研修、社内勉強会、教育担当者研修、地域の連携、薬局内のコミュニケーションがあげられた。さらに、自己研鑽として、自己向上、日頃の生活、人生観などがあげられた。

【記述形式の設問】

[31] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

役立った理由として、アイス・ブレイキングの有用性・重要性がこの記述欄であがっていた。役立った例としては、業務や自己研鑽の意味で (SGD の考え方) があつた。

具体的には、他大学生間の実習初日のコミュニケーション、初対面の人が集まる会議や SGD があげられ、個人毎に考え方が異なることが理解でき他人の意見も参考とするようになったとの回答があつた。

(薬 局)

役立った具体例として、コンセンサス・ゲームを通じて、集団のコンセンサスを得る方法、意思決定の方法として認識されていることがわかる回答が多くあつた。実務実習では、実習の開始時期に利用される例があつた。アイス・ブレイキングの意義や重要性を認識できたことが役立ったという回答が多かつた。また、SGD の意義をゲームのセッションで学んだという意見もあつた。

具体的には、コンセンサスを取り学生の不安を取り除く、個人的判断を強調することなく論理的根拠によって対処する・安易な妥協はしない・多数決では決めないなどの回答があつた。

【選択形式の設問】

③-2 スモールグループディスカッション (SGD) について：活用した業務・活動

《まとめ》

コンセンサスゲームを活用したとなると、役立ったという回答よりも数字が下がるが、実務実習では、使用頻度が実習の最初の時期に限られるために下がったと思われる、その他の項目 (業務上の活用や地域での活用など) でも、コンセンサス・ゲームを行う必要が生じる場面が少ないことがその理由と推定された。自由記述欄を見ると、他

大学の学生と一緒に実習を行う場合に、利用されたことがうかがえ、アイス・ブレイキングが実務実習でも役立ったことがわかった。

【記述形式の設問】

[32] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

アイス・ブレイキングを活用したことはない、という記述が最も多く、活用した例は少ない。日常業務などでという以下の6つ（研修会は重複3件）のみであった。

具体的には、業務などとして、日常、各種見学など、講演、研修会、初対面の人との会議・話し合いなどでの活用があげられた。

(薬 局)

アイス・ブレイキングを活用したことはない、できない、という記述が最も多く、具体例は少ない。日常の生活や業務でという以下の10の意見だけであった。

具体的には、日常の業務などとして、事前学習、外部講演者を招いての社内教育、新入社員研修、社内勉強会、自己向上、人生観、お茶の時間などでの活用があげられた。

【記述形式の設問】

[33] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

上述のように、活用した例がほとんどなく、上述と同じ回答であった。実際に、コンセンサス・ゲームが活用される場面としては、SGDを使用する参加型の研修を企画するときに限られているように見える。

具体的には、各種見学などがあげられたが、少数であった。

(薬 局)

上述のように、活用した業務としてほとんどないという回答であったが、実務実習の初期にコンセンサス・ゲームが活用されていることが多い。薬局のメンバーと学生とを交えたSGDによる自己紹介の例など、旨くアイス・ブレイキングが取り入れられている。アイス・ブレイキングではないが、ゲームのセッションはSGDの有用性を認識するセッションとなっていることがわかった。ゲームそのものは活用されていないということも伺えた。

具体的には、実習初日の顔合わせのとき緊張を取り除くため、何かを決めるときスタッフ間で、少数意見の大切さを取り入れることの重要性を日常業務で、との回答があった。

【選択形式の設問】

④-1 の設問 KJ 法（課題の抽出）について：役に立った業務・活動

《まとめ》

KJ 法が実務実習で役立ったという回答については、病院が 50%を越えているのに対し、薬局は 50%を切っていた。これは、1 施設における受け入れ学生数が病院では多いことが原因と思われる。自由記述では、病院でも、学生数が少ないと難しいという意見があり、実務実習の中で役立つものというよりも、業務で利用できる場所があればということのようである。

【記述形式の設問】

[34] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

子供の教育、研修など、自分の物事の考え方について、アドバンスト・ワークショップ、がん研修の受け入れ、学生が悩んでいる時の助言に、グループ施設の研修などがあげられた。

(薬 局)

研修会として、社内教育研修、通常のスタッフ研修、新入社員研修、社内勉強会、日常業務の検討、店舗運営、規格の選定、薬剤師会での研修などがあげられた。自己研鑽としては、薬局運営における課題の抽出をする時、病態など病気と治療に関して、頭の中で整理する際、仕事の課題抽出、調剤過誤を防ぐ方法を考えるとき、服薬指導の問題点抽出、日頃の業務の評価、薬剤師の役割、日常業務での考え方の整理などがあげられた。また経験として、KJ 法というものを知って良かった、個人の知識として役立った、思考法として役に立ったという回答があった。さらに回答は、自分のアイデア整理、日々の生活などにまで及んだ。

【記述形式の設問】

[35] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、院内での問題点の抽出と解決に非常に役立った。具体的には、医療安全分野での持参薬管理に応用した。実務実習では、指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討に役立ち、地域では、地域連携研修会において役立った。本方法の利点として、消極的な人も意見を出しやすく、それをきっかけに活発に議論に参加できるようになる点があげられた。

(薬 局)

実習生の受け入れに対する問題点の抽出、どんな患者背景があるのか考えてみる方法として、また、施設での業務改善を話し合う時に導入、問題点を洗い出すのに役に立った。実務実習では、ワークショップで作成した KJ 法のプロダクトを参考にした、との回答があった。利点として、人数が多くても焦点の絞った話し合いができることがあげられた。

【選択形式の設問】

④-2 KJ 法（課題の抽出）について：活用した業務・活動

《まとめ》

KJ 法を実務実習で活用したのは、病院が 50%を切っているのに対し、薬局のほうが 60%と多かった。患者や薬剤などのバラエティが薬局のほうが多いためと想像されたが、理由は不明である。

【記述形式の設問】

[36] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

課題を抽出して意見を集約する、研修会、グループ施設の研修、医療安全（医療事故からの問題点の抽出）へ活用があげられた。

(薬 局)

薬局内の改善点の整理、日常業務、日々の生活、短時間での議論への活用があげられ、また、薬剤師会の実務実習後の考察、薬局運営における課題の抽出、会議中の問題抽出・解決法への検討、日常生活における問題解決への活用があげられた。自社研修、新入社員研修、社内勉強会などでの活用も多く、学生と共に抽出する場面も設定したとの回答もあった。

【記述形式の設問】

[37] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、精神科薬剤管理指導初回時にワークショップでの経験を活用し問題点抽出、実務実習では、指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討、地域では、地域薬剤師会でのグループディスカッション形式勉強会への活用があげられた。利点として、様々な意見をまとめる時に公平に意見を取り入れることができるとの回答があった。

(薬 局)

施設では、調剤ミス対策で原因や発生時期の分析に活用し、実務実習では、問診表の内容改善に学生も参加させて活用し、地域では、薬剤師活動の際に問題解決に用いた。利点としては、1つの課題で正解がないあるいはたくさんある場合、いろいろあげて各々についてディスカッションすることができる点があげられた。

【選択形式の設問】

⑤-1 KJ法(課題の抽出)について:役に立った業務・活動

《まとめ》

問題点への対応のセッションが実務実習に役立ったと答えたのは、病院、薬局ともに2/3程度であり、業務で役立った(1/3程度)、地域で役立った(5~10%程度)と、ほぼ同じ程度で病院と薬局とであまり差はなかった。KJ法が役立ったという回答を上回る役立ち方をしている点は興味ある。これは、KJ法を使用しなくても、問題点の軽重、緊急性などを考えることはあるので、問題点の解決法として役立ったというものが含まれた結果であろうと推察した。

【記述形式の設問】

[38] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

自分の仕事内容にも優先順位をつけて考えるように心掛けた。また、各種研修会などがあげられた。

(薬 局)

服薬指導、薬剤師会研修会、新入社員研修、社内勉強会、仕事の問題点の確認や対応、また業務を離れた家の建て替え、家族会議もあげられた。

【記述形式の設問】

[39] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、二次元展開法が実際の業務で使用され、実務実習では、学生との話し合いの中で学生自らが改善して行く手段として使用された。地域では様々な薬剤師の間での問題点の共有化もあげられた。利点として、問題点を共有することでコミュニケーションをとる機会が増え納得のいく結論が出せるようになる点があげられた。

(薬 局)

施設では、複数回の対応をする事によりその能力が進歩する事が判り業務にも取り

入れられ、実務実習では、問題点を学生と指導薬剤師がそれぞれの解決手段をすり合わせて明確にすることに役立ち、地域では、事前に複数機関での受け入れ態勢を整えるのに役立った。利点としては、問題点の意識化・共有化、変革目標の設定と明確化が可能な点があげられた。

【選択形式の設問】

⑤-2 KJ法（課題の抽出）について：活用した業務・活動

《まとめ》

上記⑤-2 とほぼ同じ回答結果であった。薬剤師に必要な能力の一つに、このような問題解決能力があり、ニーズにマッチした結果だと思う。

【記述形式の設問】

[40] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

（病 院）

なし。

（薬 局）

日常生活、新入社員研修、社内勉強会、薬剤師会研修会、新人教育があげられた。

【記述形式の設問】

[41] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

（病 院）

施設では、関係者間で問題を共有できること、実務実習では、実習に関する問題点について優先度を決めて解決を図ることによって業務上の混乱を少なくできること、地域では、様々な薬剤師の間で問題点を共有できることがあげられた。利点としては、マイナス因子をコントロールするかプラス因子を推進するか冷静に分析できる点があげられた。

（薬 局）

施設では、優先順位を決めることは難しく順番を間違えると逆に作業の停滞を招くといったマイナス面が指摘された。実務実習では、質問に回答を複数考えさせることにより学生の考えの幅が広がること、地域では近隣の薬局との連携ができることがあげられた。利点としては、問題点の本質を探ることで自身の判断とは違った方法で解決できる場面もあることがあげられた。

【選択形式の設問】

⑥-1 PNP によるフィードバックについて：役立った業務・活動

《まとめ》

病院、薬局ともおよそ70%近くが実務実習に役立ったと答えている。カリキュラムの3要素と比べて役立ったという回答が少ないのは、わかっても、実践することが難しいためと思われる。業務で役立ったのはおよそ1/3で、病院、薬局ともに同じ程度であった。

【記述形式の設問】

[42] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

OSCE 評価者を務める際に役立つとの回答があった。

(薬 局)

同様に、OSCE 評価者を務める際に役立つとの回答があった。業務の上では、服薬指導、通常業務全般、子供への対応があげられ、また新入社員研修、社内勉強会や、学生指導、事前学習もあげられた。業務以外では、子供の教育、日々の生活、押しなべて人間関係を円満にするなどがあげられた。

【記述形式の設問】

[43] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、現状業務にもこの思考が欠けているのではないかと気づいた、実務実習では、実習生のモチベーションが上がり人間関係も良好に保てたといった回答があった。利点として、幅広い場面で役立つ、コミュニケーションがスムーズになるといった点があげられた。

(薬 局)

施設では、教育の原点の1つ、新人教育にも役立つ、実務実習では、日誌で自己に対する反省点がありにも強い学生に対して意欲を持たすのに役立つといった回答があった。生活の中の色々な場面で使用でき、地域では、プライマリ・ケアの現場で生活習慣病の生活指導の際に行動変容を促せたといった点があげられた。利点としては、理解を助けたり、深い気づきを与えることに役立つ点があげられた。

【選択形式の設問】

⑥-2 PNP によるフィードバックについて：活用した業務・活動

《まとめ》

上記⑥-1の結果と同様である。

【記述形式の設問】

[44] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

患者教育、OSCEの評価に活用できる点があげられた。

(薬 局)

OSCE 評価や学生指導、事前学習、患者対応、服薬指導から、新入社員研修、社内勉強会、部下育成があげられ、業務以外では、子育て、日常生活があげられた。

【記述形式の設問】

[45] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、部下への指導へ活用でき、実務実習では、学生の間違いについて効果的に正すことができるとの回答があった。利点としては、良い資質を探して伸ばしてやることは指導する側にも努力が必要なが理解できた、実践は難しいが心掛けるようになった、相手の気持ちを考慮すると良い方法であるといった点があげられた。

(薬 局)

施設では、実際の業務においても大切さが分かり実践した、実務実習では、実習生の到達目標チェックのフィードバックにおいて日々活用できた、地域では、自己の持つ薬剤師会の委員会運営（広報）に役立てたといった回答があった。利点としては、まず対象者の耳をこちらに向けるためPから入るとこちらの真意を汲んでもらいやすいことが良くわかり毎日助かっているという回答があった。

【全体のまとめ】

- ・ 調査項目の“役に立った”と“活用した”でほとんど差が認められない。
- ・ 実務実習では、約半数の方が活用したと回答している。また、施設でもある程度活用されている。
- ・ 一方、地域、全国レベルでは利用率は低い。
- ・ 項目の中ではゲームやKJ法の利用率はさらに低い傾向にあった。
- ・ 自由記述欄でも、KJ法、問題点への対応、PNPのいずれにおいても有益だったとのコメントが多数寄せられていた。
- ・ 地域、全国での利用率の低さは、そもそも直接指導にあたっている薬剤師は店舗に拘束されている割合が高く、その他の活動に関わる余裕がないのであろう。このことは、薬

剤師の職場環境そのもの、すなわち「多忙すぎる」こと、さらには、多忙であるがゆえに「学生を放置」といった悪い例ともつながるのであろう。

(3) ワークショップ全体について

1) ワークショップに参加されて薬学教育者、指導薬剤師としての意識は高まりましたか。

【選択形式の設問】

ワークショップに参加されて薬学教育者、指導薬剤師としての意識は高まりましたか。

《まとめ》

病院、薬局とも、大いに高まった（36%）、まあまあ高まった（45%）、少し高まった（15%）と、それぞれの割合も、合計した割合（95～6%）も同程度であった。本ワークショップの成果として評価できるものとする。

2) ワークショップに参加して有意義だったと思われた点は何ですか。

【選択形式の設問】

ワークショップに参加されて有意義だったと思われた点は何ですか（複数回答可）。

《まとめ》

病院、薬局ともに50%を越えて、最も高かったのは、「大学における6年制教育の現状が理解できた」という項目であった。これは、6年制薬学教育において、実務実習に関しては、病院、薬局が大学と協力して実習を実施してゆく上で、最も重要な共通理解が得られたという点で評価ができるが、過半を越えたとはいえ、十分とは言えない数字であると思う。また、実際に実務実習を指導する上で必要となる「実務実習の実施内容が理解できた」が45%程度、「モデル・コア・カリキュラムの構成内容を理解できた」が病院55%、薬局で47%と同じく50%前後であったことから、本ワークショップを受講し、実際に実務実習を指導した薬剤師を対象とするフォローの必要性が示される結果と考える。

【記述形式の設問】

[46] その他

《まとめ》

(病院)

その他の有意義な点として、実務実習開始前の心構えが持てたこと、実務実習に対する幅広い考え・教育に取り組む姿勢が身についたこと、教育学の基本事項・教育手

法・学習プロセス、大学での6年制教育の内容、大学・病院・薬局の実務実習に対する考え方・教育観・職業倫理の違い、薬薬連携の重要性が理解できたこと、体験を通してSGDの意義が理解できたことなどがあげられた。また、他の病院薬剤師や薬局薬剤師、大学教員との情報交換・意見交換ができたことを有意義とする回答も複数あった。一方、大学教員の医療現場に対する認識不足や薬剤師に対する評価の低さを感じた、指導薬剤師の必要性を感じないとの意見もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、他の薬局薬剤師や病院薬剤師、大学教員との情報交換・意見交換ができた点をあげる意見が複数あった。また、薬学教育に対する理解が深まった、現状における薬学教育や薬剤師の在り方についての問題点を考える契機となった、自分も成長できた、学生を受け入れるモチベーションが高まったことをあげる意見や、体験を通してKJ法やSGDの意義、参加型研修の意義が理解できたという回答もあった。

- 3) ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。

【記述形式の設問】

[47] 改善すべき点

《まとめ》

(病 院)

他の設問に比べて非常に回答数が多かった。運営面での改善を求める意見として、2日間は長い、病院薬剤師の割合が少ない、SGDの人数が多すぎる、モチベーションが低い参加者に対する対策が必要、参加人数に制限がある、開催回数が少ない、セッションの説明・プロダクトの作成にパソコンを使うべき、参加費が高い、情報交換会は自由参加にして欲しいなどの意見があった。内容的には、非現実的・実際の実習に役立たない、カリキュラムプランニングのテーマが古い、スケジュールが過多・時間がタイト、資料が不十分、配布資料は説明前に欲しい、内容的に1回の研修では理解できない、事前情報が欲しい・予習がしたい、講義が長すぎる、各セッションにもう少し時間を掛けるべき、作法を重要視し過ぎ、中途半端なプロダクトで終わってしまい消化不良、教育用語が難しい、タスクフォースの介入が統一できていない、タスクフォースのスキル向上が必要、病院薬剤師と薬局薬剤師の業務の違いを考慮した内容にすべき、横並びではなく薬剤師個々の経験や能力の差を考慮した内容が必要、SGDが多すぎる、プロダクトが反映される場がないなどがあげられた。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、他の設問に比べて非常に回答数が多かった。同様の意見

も多いが、運営面では、2日間は長い、年齢に偏りがある、SGD の人数が多すぎる、場所が不便、参加人数に制限がある、開催回数が少ない、運営経費は大学が負担すべき、情報交換会は不要などがあげられた。また内容的には、非現実的・実際の実習に役立たない、スケジュールが過多・時間がタイト・集中力が続かない、達成目標が曖昧、配布資料は説明前に欲しい、内容的に1回の研修では理解できない、事前情報が欲しい・予習がしたい、説明が抽象的である、各セッションにもう少し時間を掛けるべき、作法を重要視し過ぎ、中途半端なプロダクトで終わってしまい消化不良、教育用語が難しい、タスクフォースの介入が強引・統一できていない、タスクフォースのスキル向上が必要、病院薬剤師と薬局薬剤師の業務の違いを考慮した内容にすべき、横並びではなく薬剤師個々の経験や能力の差を考慮した内容が必要、方略の意味が良くわからない、SGD が多すぎる、2日目の2つの講演を最初に聞きたい、大学での教育内容に関する情報が少ない、コンセンサス・ゲームの正解を知っている参加者がいるなどがあげられた。

【記述形式の設問】

[48] 期待はずれだったこと

《まとめ》

(病 院)

ほとんどの回答が[47]と重複するが、実際の実習において役に立たない内容が多い・実践的でないという意見が非常に多かった。時間が長い、スケジュールがタイト、資料が十分でない、参加者のレベルが揃っていない・意欲のない参加者がいる、モデル・コア・カリキュラムの内容を扱っていない、実習に対する不安が払しょくされなかった、タスクフォースの対応・レベルのばらつきが大きい、タスクフォースの誘導が強引で参加者の意見が反映できない、SGD や KJ 法は実際の実習では使い難い、教育用語が難しい、プロダクト作成に追われ十分に意見交換・情報交換ができなかった、ワークショップ後の人的交流の場がない、病院薬剤師にとってセルフメディケーションのユニットは取り組み難いなどの意見があった。

(薬 局)

ここでもほとんどの回答が[47]と重複する。最も多いのは、やはり実際の実習において役に立たない内容が多い・実践的でないという回答であった。また、大学教員と現場との距離感を実感した・大学教員が現場を知らない、時間が長い、スケジュールがタイト、教育用語が難しい、参加者のレベルが揃っていない・意欲のない参加者がいる、モデル・コア・カリキュラムの内容を扱っていない、タスクフォースのためのワークショップになっている、タスクフォースの対応・レベルのばらつきが大きい、プロダクト作成に追われ十分に意見交換・情報交換ができなかった、OHP は時代遅れ、実習に対する不安が払しょくされなかった、資料が十分ではないなどの意見があった。

【記述形式の設問】

[49] こんなことをやって欲しかった

《まとめ》

(病 院)

実際のモデル・コア・カリキュラムに示されているユニットを対象としたカリキュラム・プランニングやスケジュール、LSの作成など、実習指導に役立つ実践的な内容を希望する回答が非常に多かった。これを反映して、具体的な指導に関わる内容について、施設間の情報交換・実際の実習指導や評価方法の例示、やる気がない学生への対処法・学生のモチベーション向上の手法の紹介、実務実習の模擬演習や学生指導に関するロールプレイの実施、様々な職種との意見交換の場の提供、指導者としてのスキルアップを図る手法・実施が難しいLSの対処法の紹介などがあげられた。また、大学教員との意見交換の場を求める意見や、現状の問題点の改善方法に時間を掛けるべきとの提案もあった。ワークショップに取り入れることは難しいが、大学の事前学習や講義の見学を希望する意見もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、実習指導に役立つ実践的な内容を希望する回答が非常に多かった。“具体的な指導方法”を求める意見として、同様に学生指導に関するロールプレイや実習の実施方法に関する具体例の紹介・SGDの実施、実習に関する大学との意見交換の場の提供、実施が難しいLSの対処法に関する討論などが求められ、また実習テキストに関する説明についても希望があった。さらに、教育論やコーチングに関する講演や、薬剤師がより興味を持てるテーマとしての在宅や薬薬連携についての実例紹介、大学の事前学習の紹介、評価方法の実例紹介などをあげる回答もあった。

【記述形式の設問】

[50] その他

《まとめ》

(病 院)

ワークショップへの参加が有意義であったという意見が多かったが、要望については、これまでの回答と同じように実習指導に役立つ実践的な内容を求める回答が複数あった。また、ワークショップ受講者に対するフォローアップ的な研修の必要性に関する意見が多く、他にも、開催回数を増やす、大学と現場の交流を促進する、共用試験現場の見学を希望する、大学での教育内容に関する情報が欲しい、もっと意見交換・情報交換の時間が欲しい、学生を交えたワークショップを開催して欲しい、タスクフォースはできるだけ多くの人にやって欲しい、事前情報が欲しいなどの希望があった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、ワークショップへの参加が有意義であったという意見が多かった一方で、同様に実習指導に役立つ実践的な内容を求める回答も相当数あった。また複数回参加の希望など、ワークショップ受講者に対するフォローアップ研修の希望もあった。開催回数を増やす、大学との交流の促進、事前学習などの大学での教育内容に関する情報の提供、事前情報の必要性なども、(病院)の回答と同様であった。さらに、ワークショップ自体の必要性に対する疑問や内容の改善を求める意見も寄せられた。

4) 今後ワークショップ受講者を対象とした地区単位、地域単位のアドバンスト・ワークショップが開催される場合

【選択形式の設問】

- | |
|---|
| <p>① 参加されますか。</p> <p>② どのような参加者が望ましいとお思いですか (複数回答可)。</p> <p>③ どのような職域の方が参加されるのが望ましいとお思いですか (複数回答可)。</p> |
|---|

《まとめ》

上で述べたことは、この項目で、病院 90%、薬局 90%の回答者(本アンケート回答者のおよそ 90%が実務実習受け入れ経験がある)がアドバンスト・ワークショップに参加する(15%程度)、あるいは、条件・内容によっては参加する(75%程度)と答えていることから重要なこととである。さらに、「参加者として、病院、薬局、大学の3者からの参加者がいること」を条件としている回答が90%近いことも、本ワークショップが、実務実習の運営にこれら3者の協力の必要性と、実際の協力基盤を提供してきたことを示すものであるとともに、フォローが必要な実務実習指導者のために、今後のアドバンスト・ワークショップを企画するときに第一に考慮すべきことを示している。

【記述形式の設問】

<p>[51] どのような内容を希望されますか。ご自由にお答え下さい。</p>

《まとめ》

(病 院)

これまでの設問でワークショップ受講者に対するフォローアップ研修の希望が多かったことを反映して、数多くの回答があがった。やはり、実際に実習指導に役立つ内容に関する要望が強く、スケジュールや指導方法、問題点の共有化、評価方法の実際、トラブル対策などについて、方法論よりも実例や事例を取り上げた実践的な内容があげられた。特に、指導に関するノウハウ、評価方法と問題点に対する対策についての

希望が多かった。また、大学との連携、施設間連携や薬薬連携による情報交換も求められ、大学を中心とした地域単位での交流の場を設けることも必要となろう。

(薬 局)

(病院)と同じく、数多くの回答があった。同様に、実際に実習指導に役立つ内容に関する要望が強く、内容的には(病院)と大きな差はなかった。指導方法、評価方法と問題点に対する対策についての希望が多いこと、大学や施設間連携、薬薬連携を求める意見が多いことも共通していた。また、事例集・事例集やインターネットの動画の利用など、教材や資料についてより使いやすいもの・実践的なものが求められる傾向にある。一方、数は少ないが、教育論や薬剤師の将来像に関する講演を希望する意見もあった。

【記述形式の設問】

[52] 全体講演を行なう場合、どのような講演を希望されますか(具体的に講演者をあげていただいても結構です)。

《まとめ》

(病 院)

実務実習内容や指導方法、評価方法、トラブル対応などに関する具体例の紹介や体験談といった実際の実習指導に活かせる内容の講演を求める回答が多かった。一方で、日野原先生やコンサルタント経験のある先生方の講演を希望する回答も複数あり、また薬剤師の将来像や薬剤師に対する医療現場・社会の期待、海外での取り組み、生涯学習制度などもテーマとしてあげられており、6年制における薬剤師教育や今後の薬剤師職能の在り方に関する啓発を希望する意見と言える。

(薬 局)

あげられた要望は上記の(病院)とほとんど同じで、実際の実習指導に活かせる実践的な内容の講演を求める回答が多かった。日野原先生やコンサルタント経験のある先生方、医療人教育で著名な先生方の講演を希望する回答も多くあり、さらに薬剤師教育や薬剤師職能の在り方を啓発する講演を希望する意見も同様にあげられた。

5) その他、ワークショップについてご自由にご意見をお書きください。

【記述形式の設問】

[53] その他、ワークショップについてご自由にご意見をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

ワークショップについて、多くの意見・要望があげられた。全体的にはワークショップの意義について肯定的な意見も相当数あるが、プログラムの改善やアドバンス

ト・ワークショップの実施を求める意見や、運営や内容に関する疑問や不満、改善を求める意見も多くあげられた。

(薬 局)

上記の(病院)と同様の意見・要望があげられた。

これまでの回答と同様に詳細に検証することにより、今後のワークショップの発展的な継続に向けて活かして行きたい。

【全体のまとめ】

- ・ 有意義であった理由は様々であり、どの選択肢も 30-40%が有意義と答えており、多面的なニーズに答えたものと言える。
- ・ 一方、アドバンストWSには、20%程度の参加希望であり、著しく低い。
- ・ また、病院・薬局・大学の三者からなるWSを期待しており、連携強化に意欲的であるものと推察される。
- ・ アドバンスト・WSへの期待の低さの要因は、向上心、多忙、具体的プログラムが不明であること、など多くの要因によるものであろう。「ニーズ」をつかんだうえで提案すれば、参加希望は増えるものと考えられる。

その他

ワークショップでは下記のSBOsを到達目標としている。

- 1) 教育の原理・あり方を説明できる。
- 2) カリキュラム立案の手順を説明できる。
- 3) 学習単位の具体例について目標を作成できる。
- 4) 教育の方法、媒体の特徴を述べることができる。
- 5) 効果的な学習方略を立案できる。
- 6) 教育評価の原則、評価方法の特性を説明できる
- 7) 適切な評価方法を作成できる。
- 8) 立案したカリキュラムを評価できる。
- 9) 教育改善に対する抵抗の克服手段を説明できる。
- 10) 教育とその改善に積極的な態度を示す。

今回のアンケート結果から、全体的には動機付けができ、良い方向に変化したと思われる。SBOsごとにどの程度の変化が起きたかについては、アンケートで具体的な問いかけをしていないので、不明である。自己流で誤った方向に進んでいないか、常に検証する仕組みが必要である。また、経営者や認定指導薬剤師以外の薬剤師にも同様の変化を期待したいが、今後の課題であろう。

資料 3

アンケート調査結果(まとめ)

ワークショップ委員会委員及びタスクフォース経験が豊富な
大学教員・指導薬剤師を対象としたアンケート調査（インタビュー）
のまとめ

2. 現行のワークショップについてご意見をお聞かせください。

2-1. 現在ワークショップで行っているプログラム

(1) オリエンテーション

- ・ 変更する必要はない。(複数)
- ・ WS のスケジュール説明だけでなく、薬学教育者としての心構えを指導するような内容も含め、WS 参加の意義を理解させる必要がある。
- ・ WS での学習目標を明示する必要がある。
- ・ 受講者は、WS で実務実習の指導方法が修得できると期待しているので、オリエンテーションの主たる目的はカリキュラムプランニングであることを明確に説明する必要がある。
- ・ 受講者は何もわからない状態で参加しているが、オリエンテーションの説明だけで WS の目的と流れを理解することは難しい。もう少し丁寧な説明が必要である。
- ・ より簡潔にすべきである。

(2) コンセンサスゲーム

- ・ 答え（NASA の見解）を知っている参加者がいるので、新しいゲームに変更すべきである。(多数)
- ・ 題材自体がマンネリ化してきており、新しい内容に改変するべきである。
- ・ 答えを知っている参加者がいても、アイスブレイキングの目的は達成できるので、変更の必要はない。(複数)
- ・ アイスブレイキングを目的とするのであれば、コンセンサスゲームではなく、「お絵かき」、「他己（タコ）紹介」も有効と考えられるので、導入すべきである。(複数)
- ・ SGD 終了後、P 会場での計算などの作業に時間がかかりすぎる。
- ・ SGD には、かなりの薬剤師が慣れてきているので、あえてコンセンサスゲームを行う必要性はない。

(3) KJ 法

- ・ 変更する必要はない。(複数)
- ・ “語るところを聞く”、“志を同じくするカードが集まる”といった本来の KJ 法に必要

- な作業が十分に行われていない。また、「島を作る」作業が単なる仕分け作業になっている。説明では、「KJ法を一部参考にして」程度の表現に留めるべきではないか。
- ・ 多くの情報を抽出するためには良い方法であるが、木を見て森を見ずの状態になることが多く、ネガティブな結論に至ってしまう傾向がある。
 - ・ 非常にすぐれた方法論であるので、別の方法に変える等の大幅な変更は難しい。
 - ・ テーマは、「薬学教育の問題点」ではなく、「長期実務実習の問題点」、「薬学 6 年制」、「薬剤師の給料表」、「薬剤師の地位」など、現場のニーズを反映したものに変更すべきである。(複数)
 - ・ テーマが「薬学教育の問題点」の場合、タスクとの意見交換の場になって行く場合が多く、十分に SGD が行われない。
 - ・ 時間が足りないので十分に SGD ができていない。
 - ・ 島が大きすぎる場合が多い。島を作る際の SGD が十分できず、大きくまとめてしまう傾向がある。
 - ・ WS の最初に「問題点をあげる」ことの必然性を十分に説明していないので、受講者はただ「やらされている」感覚になっている。
 - ・ 実習から離れたテーマの方がやりやすい。

(4) 学習目標

- ・ 必須である。変更の必要はない。(複数)
- ・ SBOs の概念は実務実習に浸透してきてはいるが WS でしっかりと学ぶ意義は大きい。
- ・ ブルームのタキソノミーを分かりやすく学ぶという点では現在のセッションのままでよい。ただ、今後モデル・コア・カリキュラムの見直しに伴い学習目標の表現形式が変わればこの流れも変わる。受講者が「結局は言葉遊び」と捉えないように、「お作法」が重要である背景をきちんと理解できる説明が必要である。
- ・ 「医療倫理」、「セルフメディケーション」、「チーム医療」以外のユニットも増やした方がよい。(複数)
- ・ 「セルフメディケーション」「チーム医療」は残し、「医療倫理と薬剤師」は他のユニットに変更すべきである。
- ・ 「医療倫理と薬剤師」については取り組みにくいので、「社会人としてのマナー」などとすればよい議論ができる。
- ・ 参加者全員が議論しやすいユニットを準備する必要がある。
- ・ 現場の実務実習に直結したユニットが望ましいが、病院と薬局で取り組みやすいユニットが異なるので、取り組みにくいユニットに当たると議論に参加できなくなる。
- ・ 複数のグループで同じユニットを扱った方が議論が深まる。
- ・ カリキュラムプランニングと教育技法の修得が WS の主たる目的であるなら、ユニットを実務実習や薬剤師業務に限定する必要はない。むしろ低学年の導入教育や基礎科目を